

今月の

用語

隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【生殖ツーリズム】

【英】 Reproductive Tourism

【類】 cross-border reproductive care (国境を超えた生殖ケア), reproductive travel (生殖旅行), reproductive exile (生殖流浪)

【用】 医療ツーリズム (medical tourism), 移植ツーリズム (transplant tourism), 搾取 (exploitation)

【用語解説】

生殖医療技術や不妊治療を受けるために海外渡航することを指す。医療システム、法律、宗教、倫理的なバリアーを回避するために行われる。日本は体外受精の実施数が多く、不妊治療大国であるが、一方で生殖補助医療に関する法整備が行われておらず、国内で行われていない技術を利用するために海外渡航する人々が後を絶たない。例えば、卵子提供、代理出産、着床前診断を用いた男女産み分けなどの技術が海外で利用されている。しかし、第三者が関わる生殖医療では、卵子提供者や代理出産者への搾取の懸念が生ずる。生殖ツーリズムの渡航先となっている国々の一部は、国民所得が低く、卵子ドナーや代理母になる女性たちは、経済的な困窮を抱えている。

関連用語として医療ツーリズムがある。インバウンド型の医療ツーリズムでは、海外の富裕層を自国に呼び込むことで、観光産業との相乗により、経済波及効果が期待される。医療ツーリズムから連想されるトリクルダウン型の経済効果を狙って、2000年代初頭、インドは商業的代理出産を合法化して、海外からの利用者を積極的に受け入れた。しかし、代理出産によるトラブルが頻発、女性や子どもといった社会的弱者の人権蹂躪や搾取などの批判が浮上し、2015年に最終的に市場を閉ざした。このように、生殖ツーリズムには倫理的な懸念がつきまとう。一方、ツーリズムという言葉には、観光旅行に伴う気楽さや享楽というイメージが内包されている。このようなイメージは、渡航を余儀なくされる人々の苦境や切実さが反映されていないとして、生殖流浪 (reproductive exile)、また、より中立的な語として cross-border reproductive care (国境を超えた生殖ケア) などの概念が用いられることもある。

専門分野：生命倫理、産婦人科学

(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 日比野由利)

本誌155p に記載